

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

連番	853	例会No.	OP271	内容	広島 宮島弥山・三倉岳	実施年月日	2018/11/3~4	担当者	山倉、板谷		
参加者	山倉康次、板谷佳史、村木とも子、保木道代、大森朋江、岩本和行、脇本勇二、上野あさみ、渡辺健、安岡和子、北山かな、飯尾廣子							参加者数	12		
担当者コメント	11月3日 今日は宮島へ渡り弥山に登る予定でしたが、連休ということもあり交通渋滞で到着が遅れたのと、日が落ちないうちに三倉岳キャンプ場へ入りたいので弥山登山はあきらめ厳島神社周辺の散策で切り上げキャンプ場へ向かいました。11月4日 5時半起床ですが外はまだ暗闇です、朝食を摂るころには辺りも明るくなってきましたがかなり冷え込んでいます、片付け撤収を済ませ7時出発、登山口付近の紅葉は今が盛りです。AコースBコース分岐からBコースを辿り稜線へ、3本槍を縦走してAコースを下る予定ですが、縦走路の一部が7月の災害で通行止めになっているという情報もありましたがとにかく行ってみることにしました。5合目付近からは傾斜が増し、クライミングの取付き付近も通ります。8時最初のピーク朝日岳到着、雲海が広がっていました、次は中岳へ鎖場を伝い8時40分到着、360度の絶景です。夕陽岳へは通行止めのテープとトラロープをまたいで侵入しましたが、ルンゼ状の鎖場が少々崩落している程度で問題なく夕陽岳(実質の三倉岳)に9時10分登頂しました。下山はAコースを下り、10時20分駐車場に戻りました。若いクライマーの姿を期待しつつ壁を眺めて登りましたが今日は誰も登っていませんでした、大阪への道のりも長いので早々に解散としました。 記:山倉										
連番	854	例会No.	一般572	内容	和泉山地・上山	実施年月日	2018/11/4	担当者	西村(晶)、翁長		
参加者	西村晶、翁長和幸、有永寛、寺島直子							参加者数	4		
担当者コメント	バスは満員で出発しました、滝畑ダムバス停より石川沿いに舗装された車道を進む、多くの登山者は岩湧山方面に登って行きました。上山谷周辺の広葉樹は薄日に照らされて色づき始めています。光滝寺の裏手より不明瞭な登山道を探しながら691mのピークに向けて登りますが、台風21号の影響で折れた木の枝が道を塞いでいるので難儀しながら傾斜が緩くなった稜線に出て小休止、稜線沿いの林道を進むと上山の頂きに到着です。上山分岐に向けて歩き出すと赤松の大木が至る所でへし折れており凄惨なことになっておりましたが、これはまだ序の口でした。千本杉峠より山道を少し下るとヘイン谷沿いに林道が続いておるのですが、左岸の杉が倒れて道を塞いでおり抜け道を探しながら倒木帯に突入しました。200メートル程の倒木帯をやっとこさで抜けてバス停に向かいました。登山道が倒木によって通れない所は迂回をするのですが、進む方向を間違わないように、地図を出して進路確認が必要です。 記:西村(晶)										
連番	855	例会No.	一般573	内容	(ベーシック登山No.48)京都西山・杓掛山	実施年月日	2018/11/11	担当者	野原、翁長		
参加者	野原勇、翁長和幸、岩本和行、村木正人、村木とも子、保木道代、岸田暎子、片山純江、寺島直子、大森朋江、脇本勇二、安本昭久、安本嘉代、北山かな、横山寿夫							参加者数	15		
担当者コメント	このコースは7年前(2011年9月)に計画、実施されましたが、この時は参加メンバー1名の足の調子が悪くなり途中で下山となりました。7年ぶりのリベンジです。またこの唐櫃越え(からとごえ)コースは天正10年(1582年)6月2日明智光秀が13,000の兵を率いて丹波亀山城を出発、夜を徹して山中を歩き京都・本能寺に滞在していた織田信長を攻めたコースとも言われています。歴史上の大事件「本能寺の変」「敵は本能寺!」です。この例会を前にネットで唐櫃越えコース状況を調べると、台風21号の影響が甚大で倒木だらけという記録が出ていました。上桂駅から西に一直線、竹林の中を唐櫃越えコースに入り墓地手前の六地藏で小休止。今日は天気も良く歩いていると暑さを感じる。杓掛山頂上で先着していたグループから、この先馬堀へのコースは倒木が酷くて大変らしいとの警告あり。事前にある程度の倒木状況は把握していたので聞き流す。このグループは引き返した模様だ。杓掛山から先は倒木の連続で見通しが悪く、「前後左右上下」に注意しながら、倒木をまたいだり、くぐったり、迂回しながら進んだが、424mの小ピーク手前辺りで右方向の小尾根に入ってしまった。距離的には僅かだったが、メンバーが多いこともありこのずれの修正に40分余りを費やす。正規ルートに戻っても倒木の連続でしたが、それ以降は迷うこともなく林道に到着、遅い昼食としました。7年前の例会時は、ここで行動を打ち切り西山団地へ下山しています。昼食後、舗装された林道を終点の広場まで歩き、その後地道を経て眼下に保津峡、JR山陰本線の鉄橋、愛宕山などを眺めながら、あっけなく送電線鉄塔の立つ眺望良好のみすぎ山到着。みすぎ山からは石がゴロゴロしたやや急な歩きにくい山道を下り如意寺へ。その後南條橋を経て住宅街の中を進んで馬堀駅到着、解散としました。台風21号のような猛烈な風台風が引き起こす倒木だらけのコースを体験、所要時間は増えましたが見方を変えれば意義のあった例会でもありました。参加メンバーの方々お疲れ様でした。 記:野原										
連番	856	例会No.	一般574	内容	故深井英司氏 慰霊登山、六甲・芦屋の岩小屋、荒地山	実施年月日	2018/11/18	担当者	紀伊埜本(節)、秋田		
参加者	紀伊埜本節雄、秋田文雄、野口秀也、和田良次、小椋美佐、上野あさみ、西村晶、近藤さとみ、上原進一、實操綾子、喜多田恵美子、大森朋江、山倉康次、村木正人、北山かな、保木道代、和田敬子、紀伊埜本博美、村木とも子、飯尾廣子、板谷佳史、岩本和行、安本昭久、安本嘉代、高木恵美子、西村美幸、西向美保子							参加者数	27		

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>深井英司さんの追悼登山に芦屋の岩小屋を選んだのは、誰でも手軽に参加してもらいたいと思ったからです。幸いこの日は秋晴れに恵まれ、27名もの多くの皆様の参加を頂きました。故人の人徳とも云うべきでしょう。ところが多士済々の面々が、がやがやのんびり登っている内に気が付くと時間切れに迫られていました。荒地山の山頂は登ったものの、秋の夕暮れを考えると肝心の岩小屋を巡る余裕がなくなりました。これは担当者私の悪い癖、いつまでも自身の老いを拭い切れぬ甘い企画が原因です、ご容赦ください。かわりに拙い文章で深井英司さんと岩小屋を偲びました。以下は、泉州山岳会創立20周年記念誌1960年発行「葛城」に残っている私の拙文です。大阪近郊の岩小屋では、何といっても芦屋の岩小屋が一番いいと思う。中略 もう店終いを始めた駅前の酒屋で何がしかのものをザックに詰め込んでもらうと、ボソボソ話しながら夜のロックガーデンを登って行く楽しみはちょっと忘れ難い。また朝の5時にここを下ると、会社に出勤することも出来るので僕は平日でもよくここへ来て泊まった。出入口が2つもあって裏の出口から2階に上がると称して、岩小屋の屋根になっている畳のような平らなテラスに上がる、大阪の街の灯が驚くほど美しい。後略』文中、僕らはとはその頃20歳台半ば過ぎの故深井英司、故峰松俊彦、和田(晴次)、神阪(鐵志)らの仲間です。激しい登攀を終えて帰阪したあと、癒しをもとめてよくこの岩小屋に泊りました。今日ばかりは少し感傷に耽つても許されるでしょうか。記:紀伊塾本(節)</p>								
連番	857	例会No.	一般575	内容	福井・ホノケ山	実施年月日	2019/11/25	担当者	板谷、村浪
参加者	板谷佳史、村浪義光、上野あさみ、保木道代、小椋美佐、安岡和子、脇本勇二、佐野雅美、山倉康次、古松育代							参加者数	10
担当者コメント	<p>例によって福井の山の時にはいつもサブリーダーをお願いしている敦賀在住の村浪氏と南条駅で合流しました。昨日は敦賀の野坂岳にも初積雪があったとのことだが、今日は汗ばむくらいの暖かな日差しの中の登山でした。残念ながら紅葉はピークを過ぎていましたが、若狭と武生を結ぶ重要な峠道であったというだけに、歴史を感じる道でもありました。滅亡した朝倉氏の武将が自害した地という石碑等を巡りながら菅谷峠から山頂へ。手頃な里山とあって出会う登山者も皆さん地元の方のようで、山頂では福井弁が賑やか、11月も下旬となったが、暖かな山頂でした。今回はJR駅が起点終点でタクシーも頼まずだったので行き帰りの車道歩きだけで3時間、登山道に4時間の計7時間の山行でした、よく歩きました。記:板谷</p>								
連番	858	例会No.	一般576	内容	当麻寺駅～二上山～上ノ太子駅	実施年月日	2019/12/2	担当者	山倉、前田
参加者	山倉康次、前田守、安本嘉代、安岡和子、板谷佳史、脇本勇二、峯岡宣重、安本昭久、保木道代、和田都子、寺島直子、西村晶、村木正人、喜多田恵美子、西向美保子、村木とも子、森本善博、馬場美穂子、大森朋江							参加者数	19
担当者コメント	<p>ダイヤモンドトレイル北端の屯鶴峯と竹ノ内街道に挟まれ、古くは万葉集にもうたわれた二上山は地元当麻寺付近では「ふたかみやま」とも呼ばれています。当麻寺駅を降りるとその双耳峰が美しく見られます。道はお寺の参道を辿って当麻寺境内へ向かい本堂前で小休止、お寺の裏門を出て裕泉寺へ向かいます。ここで小休止し先ほど購入した中将餅を味わうメンバーも・・・ここから道は少し急になり落ち葉を踏みしめて、馬の背へ出て休憩後雄岳へ11時20分着。記念写真を撮って馬の背へ戻り雌岳へ11時40分、ここで昼食休憩。下りはダイレレから少し外れた鹿谷寺跡へ寄りました、ここでは石を掘って作られた石塔と岩室の壁面に刻まれた3体の仏像が見られます。鹿谷寺跡からの下りは露岩の急勾配を下って12時50分太子町の登山口へ下山しました。予定の太子温泉へ小一時間車道を歩き解散としました。記:山倉</p>								
連番	859	例会No.	一般577	内容	六甲・須磨アルプス(横尾山、312.1m)	実施年月日	2019/12/9	担当者	大石、杉本
参加者	大石隆生、杉本康夫、村木正人、脇本勇二、森本善博、森本咲穂、實操綾子、喜多田恵美子、片山純江、上野あさみ、村木とも子、西村晶、近藤さとみ、寺島直子、北山かな、安本昭久、安本嘉代							参加者数	17
担当者コメント	<p>六甲山系は塩谷の海岸近くから始まり、東の宝塚へと延びるにつれてだんだんと海から離れていきます。今回のコースはその始まりの部分です。摩耶山や六甲最高峰からの大阪湾は向こうの方に見えているという感じですがそれが真下に見え、海を挟んで遠くには二上山から金剛山、ぐるっと回って友ヶ島、淡路島、明石海峡大橋と、いつもとは違う眺めを楽しみながら歩きました。山陽電鉄の板宿駅から市街地を抜けて板宿八幡神社に着き、ここから山道が始まる。葉を落さない広葉樹が多く冬枯れを感じさせない雑木林の中の道を登り、1回の休憩を挟んで東山へ。この先から、今回の楽しみでもあり難関でもある須磨アルプスが始まる。風化した花崗岩の斜面が侵食されて独特の景観を生みだしている。片側や両側が切れ落ちているので、西からの来た人とすれ違いができる場所が限られる。道を譲り譲られしながら登るうちに雑木林に入り、横尾山に着く。ここでのお昼休憩後、梅尾山から高倉台団地へと下っていく。コンクリートの階段を急降下してから団地を通り抜け、先程の3分の2ぐらいの段数を登り直して高倉山の東端へ。神戸空港に着陸する飛行機を眺め、小さな上り下りを繰り返して鉄拐山を過ぎ旗振山へ。ここからは石が張られた遊歩道となり、須磨浦公園駅へと下って解散とした。記:大石</p>								
連番	860	例会No.	一般578	内容	佐和山城(232.6m)歴史探訪シリーズNo. 41	実施年月日	2019/12/16	担当者	小椋(勝)、野原
参加者	小椋勝久、野原勇、村木正人、村木とも子、大森朋江、上野あさみ、安岡和子、小椋美佐、渡辺健、近藤さとみ、寺島直子、脇本勇二、横山寿夫、板谷佳史							参加者数	14
担当者コメント	<p>彦根駅に降り立ち北東方向を見ればお椀を伏せたような山が間近に見える佐和山城本丸跡だ。彦根駅東出口から佐和山のすそ野を北に向かい井伊家菩提寺、清涼寺、井伊神社を通り過ぎると大洞弁財天(彦根の東北にあり軍事的な要素を持つ藩寺)に着く。弁財天境内を通り裏手から弁天山に向かう。少し急登を登ると尾根に出る。尾根は木立の中の道でハイキング気分の中、南へ30分ほど歩くと本丸跡に着く。本丸跡からは伊吹山、琵琶湖、三上山、北国街道と中山道の分岐など360度の見晴らしだ。なるほどここに城を構えるのも頷ける。城跡は見る影もなく破壊されていて関ヶ原後の徳川の徹底した豊臣排除が見て取れる。冬枯れの本丸跡にて石田三成の話をした後 彦根城を見下ろしながら昼食をとる。本丸跡には散り残ったモミジが雪をかぶった伊吹山に重なり武士の哀れを一層引き立てると三成の句を思い出す。『散残る 紅葉は殊に いとほしき 秋の名残りは こればかりぞと』昼食後佐和山の三角点を確認し、登城道から太鼓丸跡を通り国道8号線へ出る。ここから彦根城へと向かい彦根城内を散策し帰途に着きました。記:小椋(勝)</p>								
連番	861	例会No.	一般579	内容	若狭・多田ガ岳	実施年月日	2019/12/23	担当者	村浪

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

参加者	村浪義光、保木道代、佐野雅美、上野あさみ				参加者数	4				
担当者コメント	担当の板谷リーダーが急遽参加できなくなり、参加者4名の為、当初予定の小浜駅からのタクシーをやめ、上中駅で下車し敦賀から参加の村浪リーダーの車に乗り下山口に駐車。妙楽寺の登山口まで30分を歩いてのスタートとなりました。役行者にまつわる山らしく、足場の悪い箇所も多く各所にロープが張られ緊張の山行でしたが、360度展望がきく山頂に到着すると疲れも吹き飛びました。心配されていた降雨も下山時林道に出たからだったので、今年の締めくりにふさわしいラッキーな山行でした。記:上野									
連番	862	例会No.	一般580	内容	金剛山	実施年月日	2019/1/6	担当者	西村(晶)、翁長	
参加者	西村晶、翁長和幸、安本嘉代、保木道代、上野あさみ、前田守、山倉康次、安本昭久、村木正人、村木とも子、大森朋江、寺島直子、安岡和子、板谷佳史、脇本勇二、峯岡宣重、飯尾廣子				参加者数	17				
担当者コメント	ロープウェイバス停より久留野峠まで緩やかな登山道登る、標高890m。風よけのジャケットも被ることも無く、今年もあったかいです。白く輝く霧氷の山々を見れるかなと少し期待して登って来ましたが、残念ながら真っ白な霧氷は見ることが出来ませんでした。ヨーロッパアルプスのアイガー北壁も雪が無いので、夏は登られていないと聞きました、急速に温暖化が進んでいるのでしょうか。葛木神社で今年一年の安全登山を願う。踏み固められた雪道をアイゼンを付けてセトより黒梅谷に下りました。記:西村(晶)									
連番	863	例会No.	一般581	内容	新年ハイキング・『堺の里山と泉州山岳会慰霊碑建立予定地を巡ります』	実施年月日	2019/1/14	担当者	紀伊埜本(節)、板谷	
参加者	秋田文雄、有永寛、飯尾廣子、井倉和代、板谷佳史、岩垣寿治、岩本和行、上原進一、牛山恵美子、大石隆生、大森朋江、上野あさみ、小椋勝久、翁長和幸、河合幸夫、川崎喜美子、紀伊埜本節雄、樺田克彦、神阪洋子、杉本康夫、西向美保子、西村晶、野原勇、保木道代、前田守、榊田誠寛、松田芳治、松本明恵、實操綾子、三原秀元、村木正人、森本善博、安岡和子、山倉康次、脇本勇二、和田敬子、和田良次、和田都子				参加者数	38				
担当者コメント	当初予定されていた天野山金剛寺からのコースなら理想的なハイキングができたはずなのですが、発案者の紀伊埜本さんからコース近傍に住まいする前田さんが何度も現地調査の結果大人数の通過には適さないということでやむを得ず縮小したコースで実施されました。送迎バスのおかげで余計な車道歩きが省かれて林道ゲートから歩き始めることができる。暖かな青空の元、法道寺に到着し、寺内を散策。続いて墓地に隣接する堺自然ふれあいの森に移動する。少し里山の登山道を歩き稜線で昼食休憩。下山後鉢ヶ峯公園墓地内にある「泉州山岳会慰霊碑建立予定地」に向かう。杭打ちや縄張りがされた予定地を前に、実施委員長の紀伊埜本さんから慰霊碑建立に至った趣旨、経緯やすでに堺市と永代使用の許可、契約が済んでいること、碑の完成時の姿、などの説明を受けました。記:板谷									
連番	864	例会No.		内容	2019年 新年会・いよやかの郷	実施年月日	2019/1/14	担当者	小椋(勝)、前田、杉本、大石	
参加者	秋田文雄、飯尾廣子、井倉和代、板谷佳史、岩本和行、上原進一、牛山恵美子、北山かな、大石隆生、大森朋江、上野あさみ、小椋勝久、翁長和幸、河合幸夫、川崎喜美子、紀伊埜本節雄、樺田克彦、杉本康夫、西向美保子、西村晶、野原勇、馬場美穂子、保木道代、前田守、榊田誠寛、松田芳治、松本明恵、實操綾子、峯岡宣重、三原秀元、村木正人、森本善博、安岡和子、山倉康次、脇本勇二、和田敬子、和田良次、和田都子、渡辺健				参加者数	39				
担当者コメント	泉州山岳会は2020年に創立80周年を迎えます。その記念行事の一環として、合同慰霊碑の建立を目指しています。今回はハイキングを兼ねてその予定地を見学して頂いた後、新年会場へ移動するという趣向になりました。建立の趣旨や意義をご理解いただいたうえで、建立のための費用の一部としてEPEクラブの会計からも拠出金を負担することになり、そのことのご承認を受ける場ともなりました。これをもって実現の確信を持つことができましたと考えます。2019~20年に向けEPEクラブとしての活動に加え、慰霊碑建立のための活動が加わることとなります。会員一同益々健康と登山の安全を期して活動していくことを誓う新年会となりました。記:板谷									
連番	865	例会No.	一般582	内容	比叡山	実施年月日	2019/1/20	担当者	翁長、野原	
参加者					参加者数					
担当者コメント	雨天中止									
連番	866	例会No.	OP272	内容	第17回スキーカーニバル・イン北海道富良野スキー場	実施年月日	2019/1/20~23	担当者	西村(晶)、大石	
参加者	西村晶、大石隆生、上原進一、岡部一郎、脇本勇二、板谷佳史、前田守、岩垣寿治、片山純江、大森朋江、笠松マサエ				参加者数	11				

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	ロッカーでスキー靴に履き替えて20数歩でドアを開ければ、白銀のゲレンデに飛び出すことができます。雪質はもちろん粉雪の舞うパウダースノーです。富良野スキー場は今回で5度目になります、雪質の良さと変化に富んだコースの楽しさでしょうか。昨年は強風の為にロープウェイとリフトが止まり、上部まで上がる事が出来ませんでした、今年は楽しめました。新雪が数十センチ積もりゲレンデは最高の状態です。直滑降からスタートして左に軽くターン、右に大きくターンを連続して繰り返すと次は小回りのターンで滑降です。雪質が良いのでスキー板は自然に曲がってくれます。北の峰ゴンドラで943mまで上がり◆◆プレミアムゾーンに挑戦です、圧雪されていないエリアです。ゲートが開くとバックカントリースキーヤーが一気になだれ込みました。スキー板が外れ埋もれても判るようにスキートレーサーを板に装着して谷に向かって滑降です、雪は、深く、軽く、雪煙が上がり極上粉雪の滑降をしばし楽しみました。深い雪での滑降は幅広でトップが大きく反り上がったスキー板を使用する事によりトップが雪に潜らずに浮き上がり、安定した滑りを楽しむ事ができます。スキー滑降を始めてみませんか、粉雪の舞う斜面にシュプールを描きませんか、回数を重ねれば上手く滑れますよ。 記:西村(晶)									
連番	867	例会No.	一般583	内容	(ベーシック登山No. 49) 比良・蓬萊山周辺 ビバーク実地講習	実施年月日	2019/1/27	担当者	野原、翁長	
参加者	参加者数									
担当者コメント	中止									
連番	868	例会No.	一般584	内容	伊勢・朝熊ガ岳	実施年月日	2019/2/3	担当者	板谷、小椋(勝)	
参加者	板谷佳史、小椋勝久、岩本和行、三原秀元、村木正人、村木とも子、上野あさみ、保木道代、安岡和子 参加者数 9									
担当者コメント	担当者の手落ちで、ダイヤ改正されたのを知らず予定した急行が無い。途中で特急に乗り換えてなんとか10時過ぎに朝熊駅に着く。登山口には広い駐車場がありマイカー登山者も多く人気がある山のような。朝熊峠を経て山頂(朝熊ガ岳最高点)で昼食休憩。高曇りで伊勢湾の展望もよく見え暖かな天気気分も良い。山頂から金剛証寺まで往復し、帰り道に国の史跡となっている経塚群にも立ち寄る。再び朝熊峠を通過する、往年はケーブルカーやバスが通い旅館まであったとは驚きだ。予報通り天気は下り坂、宇治岳道の帰り道を急ぐ。雨に会わないうちに伊勢神宮前の賑わいの横丁に出られた。帰りの電車は急行で2時間半近い長時間乗車の末、すでに雨となっていた大阪に帰りました。 記:板谷									
連番	869	例会No.	一般585	内容	金剛山	実施年月日	2019/2/10	担当者	西村(晶)	
参加者	西村晶、飯尾廣子、安本昭久、脇本勇二、北山かな、保木道代、寺島直子、上野あさみ、森本善博、森本咲穂 参加者数 10									
担当者コメント	待ち望んでいた、寒波到来、大雪の予報を聞き、防寒着と手袋を厚めの物に替え、雪に覆われた金剛山を想像していましたが、大雪は大阪まで南下しませんでした。青崩道登山口辺りはもちろん雪はありません、少し雪が出てくるのはセトあたりです、降りられてくる登山者は軽アイゼンを付けているので期待をしたのですが、雪は少なかったです、国見城跡周辺は標高と風が通るのか霧氷が少し見られました。 記:西村(晶)									
連番	870	例会No.	一般586	内容	台高・三峰山	実施年月日	2019/2/17	担当者	杉本、板谷	
参加者	杉本康夫、板谷佳史、保木道代、前田守、上野あさみ、寺島直子、飯尾廣子、村木正人、村木とも子 参加者数 9									
担当者コメント	バス停から少し戻り、二本目の橋から登尾登山道にルートをとりました。稜線に出るとそこにはトイレがついた休憩小屋があり、バス停から林道を上ってきた車も止まっていました。暖冬でこの付近にはまだ雪がありません。ここから少し登ると曇り空ながらも俱留尊の山々が望めます。標高1,120m付近には立派な山小屋が建てられていて不動滝コースと合流しました。山頂付近では2~3cmに成長した可愛い樹氷が見られ、冬の山らしさになってきました。あちらこちらで休憩の大勢の人で賑やかです。雲の切れ間から日がさし太陽の暖かさが感じられます。八丁平は雪原にはなっていないが樹氷の花が咲き乱れ素晴らしい景色が見られました。下山の新道ルートは人が少なく静かな雪山になりました。温かい日が続いて雪は少なかったが、新道峠へ下る道では怖いぐらい鋭く尖った針状の綺麗な霧氷が見られました。帰りのバス車窓から振り返ると雪をまとった白く浮き上がった三峰山が印象的でした。 記:杉本									
連番	871	例会No.	OP273	内容	東北スキー場巡り、その11・鱒ヶ沢スキー場	実施年月日	2019/2/17~20	担当者	大石、西村(晶)	
参加者	大石隆生、西村晶、上原進一、脇本勇二、岩垣寿治 参加者数 5									
担当者コメント	伊丹空港発午前7時30分、帰着午後7時55分と出発が早く、戻ってくるのが遅いという行程でしたので、過去のスキー例会に比べて参加者が格段に少なくなりオヤジばかりのグループとなりました。天候はまずまず、雪質もまずまずで、初日の日曜日を除けばコースは空いていて、延べ3日間で閉鎖中のコースを除いてほぼ全てのコースを思う存分滑ることができました。レッスンの時間も取ることができ、パラレルの感覚を少しは掴んでもらえたのではと思っています。ホテルの食事は3日間いずれも朝夕バイキングでついつい食べ過ぎ、よく滑って食べた楽しい4日間でした。 記:大石									
連番	872	例会No.	一般587	内容	比良・堂満岳東稜道	実施年月日	2019/2/24	担当者	山倉、板谷	
参加者	山倉康次、板谷佳史、上野あさみ、村木正人、村木とも子、安岡和子、前田守、杉本康夫、岩本和行、村浪義光 参加者数 10									

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>昨年この時期に青ガレから金糞峠経由で堂満岳に登りましたが、雪は少なく以前より1ヶ月ぐらい季節は進んでいるよう思われました、比良駅着8:41今日も比良駅を降りると暖かく感じられます、ここから見る比良の山々も上部に残雪が見られる程度で春の兆しさを感じさせられます。桜のコバ分岐で、敦賀からの村浪さんと合流し古い別荘横から入山し30分程度でノタノホリ着。ここでは、夏にはモリアオガエルの産卵が見られるようです、標高700m付近から残雪が現れ本格的に雪面の登りとなります。慣れない人にはアイゼンなしではちょっと不安のようですが、ステップがしっかりついているのでアイゼンなしで堂満岳(12:50着)まで登りました。下りはアイゼンを着け一気に下降し15:15登山口で解散としました。 記:山倉</p>									
連番	873	例会No.	一般588	内容	大峰・岩屋峰	実施年月日	2019/3/3	担当者	杉本、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、上野あさみ、保木道代、飯尾廣子、北山かな、板谷佳史、村木正人、村木とも子、岩本和行、安岡和子、三原秀元							参加者数	12	
担当者コメント	<p>洞川には奈良県の天然記念物に指定されているイワツバメの越冬地があって、洞川では「かりがね」と呼ばれその岩燕の飛ぶ姿の美しさから「かりがね吊橋」と名づけられたそうです。かりがね橋は地上50mにあり長さが120mでワイヤーで吊されているため歩くと結構揺れるが足下には洞川の町並みと周囲の山々の景色が望まれる。まるで飛行機の中から町中を見ているようです。大原山までは展望台もあり右側に洞川や対面の五代松鍾乳洞を見ながらの登りで、大原山を過ぎると樹林帯になり稜線沿いに岩屋峰めざし登って行く。今年の冬は暖かく岩屋峰までの登山道は雪がなく凍っていないので全くの夏道であった。二時間で頂上に着くが頂上には表示板がなく地形図で頂上を確認する。暖冬であっても風は冷たく、風を避けて大休をとる。下山は往路を引き返し山上ヶ岳や稲村ヶ岳を見ながらの下りで、かりがね橋を渡らず直接車を止めた駐車場に降り、解散としました。 記:杉本</p>									
連番	874	例会No.	一般589	内容	京都一周トレイル-4・北山西部	実施年月日	2019/3/10	担当者	板谷、前田	
参加者	板谷佳史、前田守、杉本康夫、保木道代、北山かな、飯尾廣子、安岡和子、上野あさみ							参加者数	8	
担当者コメント	<p>京都へ向かう電車からの空模様はどんより曇ってはいるが、時々薄日が差す天気でしたが、二ノ瀬駅から雨を覚悟の支度をして出発しました。11時頃から時々雨となり傘が手放せない登山となりましたが、強く降ることは無かったのが幸いでした。コースは時々樹間から京都の市街が見え都会からそんなに離れていないのだが、他の登山者と出会うことは皆無でした。薄暗く冷たい雨とも相まって、よほどの寂しい山間部に来た感覚が終始ありました。京都一周トレイルの市街を取り囲む一周コースはあと6月の一回で終了です(その後京北部を一周するコース二回を予定)。次回、西山部は嵯峨野や嵐山などの賑やかな観光地通過もあり寂しいばかりの山道とは別な楽しみも味わえるかと? 記:板谷</p>									
連番	875	例会No.	一般590	内容	東海自然歩道 箕面～泉原	実施年月日	2019/3/17	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	
参加者	小椋勝久、西村晶、村木正人、村木とも子、前田守、保木道代、北山かな、飯尾廣子、西村美幸、峯岡宣重、安本嘉代、安本昭久							参加者数	12	
担当者コメント	<p>箕面駅に降りると今にも降り出しそうな空模様。出発前恒例の挨拶を済ませ近畿自然歩道と書いた石碑の横を通り箕面の滝へと向かう。春の陽気に誘われてと思っていたが、冬へ逆戻りの天気、おかげで箕面の滝周辺も閑散としていました。しかし滝に着くころから雨が降り出し傘の出番、その後も降ったりやんだりの空模様。箕面の滝から、こもればの森方面へ向かいこもれば展望台から政の茶屋園地に向かう。政の茶屋園地で昼食をとり東海道自然歩道へと向かうが、自然歩道は台風で通行止め、仕方なく大阪府自然研究路を通り勝尾寺に向かう。勝尾寺に着くころには本格的な雨になり売店の軒下を借り雨支度をするも歩き出すと雨は小降りになる。勝尾寺から自然研究路に入り泉原に向かう東海道自然歩道へと進む。汗をかきながら尾根へでると東海道自然歩道の立て札、そこから北摂霊園横を通り暗い谷を経て林道にでる。ここまでくればあと一息。雨も上がり肌寒い中、泉原の集落を抜けバス停に着く、思っていた時刻より早いバスに乗ることができJR茨木方面へと向かった。 記:小椋(勝)</p>									
連番	876	例会No.	OP274	内容	四国・三嶺	実施年月日	2019/3/23~24	担当者	板谷、山倉	
参加者	板谷佳史、山倉康次、村木とも子、村木正人、脇本勇二、上野あさみ、小椋勝久、安岡和子、保木道代							参加者数	9	
担当者コメント	<p>3/23 昨年、剣山の時お世話になった美馬のタクシー会社に無理をお願いして阿波池田周りで祖谷の名頃登山口まで送ってもらう。親切にも迎車料金無しのサービス。桜が咲き始めた祖谷の山あい眺めながらのんびりと登山口へと走る。登山口の休憩所やトイレは冬季閉鎖され、今はさびしい登山口である。暖かな中を登って行くが1600mを越えたあたりから雪が舞い始め翌朝にかけ降り続く天気となった。 3/24 異常なほど暖かな3月を過ごしましたが、三嶺では思わぬ多量の積雪で朝が明け、吹雪の中を出発となり、北からの強風が冷たい。視界はかなり効くし、夏道が隠れてしまうほどの積雪量でもないので予定通り縦走することにしました。皮肉にも3月も終わりの今回の例会が今冬最も冬らしい天候となりました。幸い9時頃には吹雪は止み青空が覗くほどになったので、冬山の厳しさと春山の楽しさが味わえる山行となりました。 記:板谷</p>									
連番	877	例会No.	一般591	内容	京都・音羽山	実施年月日	2019/3/24	担当者	野原、森本	
参加者	野原勇、森本善博、安本嘉代、寺島直子、駒井万生子、西向美保子、喜多田恵美子、安本昭久、岩本和行							参加者数	9	

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	この時期は例年のことながら気温の変化が激しい。2~3日前は21度を越えていた最高気温が今日は12度まで下がる中で登山となりました。「これやこの行くも帰るもわかれては知るも知らぬもあふ坂の関」で有名な百人一首の歌人「蟬丸」を祀った蟬丸神社からスタート。逢坂の関跡に架かる歩道橋を渡り、飛び飛びではあるが合計605段の階段登りを経て稜線へ。その後はなだらかなアップダウンを繰り返しながら音羽山頂上。頂上からは京都盆地やびわ湖も一望だ。この頂上から下界を見ると京都と滋賀の近さが一目瞭然。なぜこんな戦略上の好立地に城が築かれなかったのか不思議だ。またこの山頂直下には音羽山トンネルが掘られ新幹線が走り抜けています。音羽山頂上で小休止後、パノラマ台を経て牛尾観音へ。本堂前の縁起を読むと、この牛尾観音は宝亀9年(778年)の創建。正式には法厳寺といい清水寺の奥の院にあたるそうです。これ程の歴史がある寺であるが普段は無住寺なので人の気配がない。昼食大休止とする。昼食後「桜の馬場」を経て谷沿いの道を横嶺峠へ。お地藏さまの安置してある横嶺峠から上醍醐寺へのコースは立入禁止となっており、醍醐寺へ直接降りる石ころがゴロゴロした歩きにくい登山道を醍醐寺まで下りました。醍醐寺は「醍醐の花見」でも有名な桜の名所でもあり満開の桜を期待していましたが、1週間以上早すぎたようです。残念！観光客がひっきりなしに出入りする醍醐寺西大門(仁王門)の前で解散。歩いていると暑さを、止まると寒さを感じる今日の例会、参加の皆様お疲れ様でした。 記:野原									
連番	878	例会No.	一般592	内容	(ベーシック登山No.50)高野山・女人道	実施年月日	2019/3/31	担当者	杉本、西村(晶)	
参加者	杉本康夫、西村晶、村木正人、三原秀元、前田守、和田都子、實操綾子、西村美幸、松本明恵、飯尾廣子、喜多田恵美子							参加者数	11	
担当者コメント	2、3日前まで暖かい日が続いていたが、今日は真冬の寒さに逆戻り。風も強く切り開かれて見晴らしの良いところでは西風をまともに受け寒さが身にしみず。風の当たらないところでは春を感じさせられる暖かさがありました。大門の前に設置してある温度計では2.6度を表示していました。大門は表参道として栄えた参詣道の出入り口とあってその大きさに圧倒されます。奥の院までの前半は高野山を取り囲む尾根筋を歩くのでアップダウンがあり、山登りと同様のしんどさがありました。この道では日本人は余り見かけずに外国人の方が多く歩かれていました。世界遺産に登録されたためか西欧人がほとんどです。奥の院からは高野三山の間を縫うように舗装された道を歩くのですが、駅でもらった女人堂跡めぐりのイラスト地図を手に距離感がつかめず地図にある番号探してさながらオリエンテーリングの様相です。わいわいガヤガヤと賑やかに休憩時間を忘れるほど一生懸命になってしまいました。黒河口女人道跡を過ぎた頃から再び山道になり30分ほどで不動坂口女人堂のあるバス停に着きここで解散としました。 記:杉本									
連番	879	例会No.	一般593	内容	湖北・東山	実施年月日	2019/4/7	担当者	小椋(勝)、野原	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	880	例会No.	一般594	内容	柵谷から和泉葛城山	実施年月日	2019/4/14	担当者	紀伊埜本(節)、西村(晶)	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	881	例会No.	一般595	内容	金剛山地・府庁山~旗尾岳(天見富士)	実施年月日	2019/4/21	担当者	西村(晶)、翁長	
参加者	西村晶、翁長和幸、安岡和子、前田守、山倉康次、安本昭久、村木正人、大森朋江、飯尾廣子、保木道代、安本嘉代、喜多田恵美子、西村美幸							参加者数	13	
担当者コメント	モクレンの白い花が咲き、桜が咲き終わる頃にハナミズキの花が咲き始め早春を感じる季節になりました。千早口駅より車道沿いにも色とりどりの花が咲いており心をなごましてもらいました。先日に登った葛城山もカタクリの花が咲いておりました。クヌギ峠より田山までは傾斜がきつくなるのでワンピッチはゆっくりと歩くように心がけています。府庁山より岩瀬山に寄り道をしてから4つ目のピーク旗尾山に向かいました。田山、府庁山、旗尾山は緩やかな尾根筋の山域で派手やかさは無いが新緑の眩しさを感じながら歩ける山でした。 記:西村(晶)									
連番	882	例会No.	一般596	内容	鈴鹿・霊仙山	実施年月日	2019/4/28	担当者	板谷、山倉	
参加者	板谷佳史、山倉康次、上野あさみ、前田守、脇本勇二、村木正人、飯尾廣子、保木道代、馬場美穂子、安岡和子、黒澤百合子、村木とも子							参加者数	12	
担当者コメント	平成最後の例会は幸い好天となりました。今畑登山口からいきなりの急登で始まり、さびしい廃屋となった住居跡を抜けて西南尾根に取りつく。尾根はやがて典型的な石灰岩地形(カレンフェルト)となり鋭く尖った石灰岩露頭の間を縫って急登が続く。近江展望台のピークを過ぎると傾斜は緩むが、石灰岩の積み重なる尾根道は歩きにくい。途中、昼食休憩を挟んで最高点に立つと北の展望が開ける。すぐ向かいの伊吹山の向こうに真っ白な白山、更に向こうにはアルプスや御岳が遠望される。琵琶湖と伊勢湾も同時に眺められ贅沢な展望が楽しめた。下降は経塚山から一気に汗ふき峠へ向かい元の今畑登山口へ戻った。暑くなると蛭が怖い山域だが、今の季節ならその心配も無い。春の花の最盛期には少し早過ぎたようだが、それでも多数の花が目を楽しませてくれたので多少なりともご期待にそえたのではないのでしょうか。 記:板谷									
連番	883	例会No.	OP275	内容	恵那山(船伏山)	実施年月日	2019/5/3~4	担当者	山倉、板谷	
参加者	山倉康次、板谷佳史、村木とも子、保木道代、上野あさみ、飯尾廣子、脇本勇二							参加者数	7	



# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>5月3日 集合場所からの出発が1時間遅れたこともあり、連休の高速道路渋滞に予想通りはまってしまいました、登山口出発が15時前と想定以上に遅れた出発になりましたが何とか明るいうちにと思い駐車場を後にしました。15分ほど登ると開けた展望の良い稜線に出ます。快晴の稜線では西から白山、御嶽、北アルプス、八ヶ岳、東へ南アルプスのパノラマが楽しめます。周遊路分岐から右へ恵那山へと続く稜線をほぼ中間点の大判山(1696.3m)へ16:40着、標高1970m付近で日没を迎え尾根状から残雪の斜面の登行となります、足を取られながらも皆さん頑張って頂上小屋へ21時着。行動時間は6時間でしたが半分以上が夜間となってしまいました、小屋には先着者が2名、小屋の前にテント1張りでもまだ就寝前でしたので迷惑もかかず早々に夕食を済ませ明日に向け就寝。</p> <p>5月4日 ゆっくり寝るつもりが4時半ごろ目が覚めてしまいました。朝食後恵那山三角点へ空身で出発、雪面は固く凍結状態です、頂上には展望台がありますが樹林が高いため展望は利きません、記念撮影を済ませ小屋に戻りアイゼンをつけて7時下山開始、雪面が昨日に比べ固くなっているので足を取られることもなく下れます。登りの登山者も早朝から多く、ほとんどが日帰り登山のようです、雪面から稜線へ移り、展望を楽しみながら11:30神坂峠へ下山しました。帰りの高速は渋滞にもかわず順調に帰阪できました。 記:山倉</p>									
連番	884	例会No.	一般597	内容	六甲・有馬 瑞宝寺谷～最高峰	実施年月日	2019/5/5	担当者	大石、杉本	
参加者	大石隆生、杉本康夫、板谷佳史、前田守、和田敬子、保木道代、寺島直子、安本嘉代、喜多田恵美子、和田良次、安本昭久、大森朋江							参加者数	12	
担当者コメント	<p>EPEの例会では歩き尽くされた感じがある六甲山ですが、例会報告と地図を丹念に調べると歩かれていないコースがまだまだあります。部分的ですが、今回もそのうちのひとつです。もみじが多く紅葉の頃にはさぞかし見応えがありそうな瑞宝寺公園から静かな筆屋道に入り、花を楽しみながら登っていく。魚屋道に合流すると人気のあるコースとあって、ハイカーやトレイルランナーと何度もすれ違い追い抜かれていく。吉高神社の手前からマイナーなコースの最高峰北西尾根に入る。アキレス腱を思いっきりストレッチするような急斜面を登り、最高峰の広場に飛び出す。ここも大勢の人で賑わっている。最高峰の標柱の前で写真を撮るのも順番待ちで、初めての経験。ここでのお昼休憩の後、石の宝殿へ。ここからは再び静かなコースとなり、熊笹峠を経て奥池のバス停へと下っていった。 記:大石</p>									
連番	885	例会No.	一般598	内容	歴史探訪シリーズ No. 42 苗木城跡、南木曾岳	実施年月日	2019/5/11~12	担当者	小椋(勝)、板谷	
参加者	小椋勝久、板谷佳史、村木正人、村木とも子、安岡和子、上野あさみ、保木道代、大森朋江、三原秀元(一日目参加)							参加者数	9	
担当者コメント	<p>1日目 歴史探訪 連休の後の休日とあって高速も混んでおらず割と早く現地駐車場に着いた。今回の歴史探は遠山家ゆかりのお城 苗木城 1万石で城持ち大名は他には無く苗木藩のみ、そのおかげで財政は圧迫し幕末には多大な借金があった。そんな。駐車場で挨拶と城の説明をして足軽屋敷跡に向かう、足軽屋敷に着くと目の前に巨石の上に築かれた天守閣跡が現れてくる、圧巻だ。天守閣を見あげながら遠山家の話などをしながら、三の丸を通り二の丸から本丸へと向かう。天守閣からの眺望は360度、木曾川を眼下に見下ろし恵那山から中央アルプスまで見渡すことができる。なるほどこの急こう配、城の位置などを考えると森長もすぐには落とせなかったのも頷ける。歴代藩主は貧しいながらもここに上がると嫌なことも忘れたのではと思いを馳せさせる。時間があるので中山道落合宿の石畳を見学し宿泊地へと向かった。夜は旬の山菜などの料理に皆さんも笑顔になり話が盛り上がりました。</p> <p>2日目 南木曾岳登山 快晴 駐車場へ着くと多くの先客の車 ホテルの都合で出発が遅くなったのが少し残念、駐車場で登山届をポストに入れ挨拶を済ませ歩き始める。林道を10分程度歩くと登山口に到着。砂防ダムを巻いて沢沿いに歩き山道に入り、しばらく歩くと下山道分岐に着く。ここから、本格的な登山になる。汗をかきながら急登を登っていくとアカヤシオが現れ始める、アカヤシオを楽しみながら鎖場や階段を1時間半ほど上っていくと三角点に着く。頂上は三角点から5分ほど歩いたところにある。頂上横の見晴らし台からは噴煙上がる御嶽山が良く見えた。山頂から10分程度歩くと避難小屋に到着する。女岩が有り展望スポットになっており、ここからは中央アルプス、御嶽、乗鞍などが一望できる。食事をしながらしばらく展望を楽しみ下山する。下山道は急な梯子の連続で足元に注意し下降する。2時間近く急な下りを歩き駐車場に着いた。帰りに蘭温泉に入り疲れをいやし帰途に着きました。 記:小椋(勝)</p>									
連番	886	例会No.	一般599	内容	近つ飛鳥風土記の丘～岩橋山	実施年月日	2019/5/12	担当者	山倉、西村(晶)	
参加者	山倉康次、西村晶、安本嘉代、黒澤百合子、脇本勇二、森本善博、片山純江、喜多田恵美子、寺島直子、飯尾廣子、安本昭久							参加者数	11	
担当者コメント	<p>9時過ぎ、金剛バスを近つ飛鳥博物館前で下車し近つ飛鳥風土記の丘の尾根上へ急登すると多くの古墳が見られます、この周辺は一須賀古墳群で262基の古墳が発見されているようです、点在する横穴式石室には発掘番号が付けられており、その横を登ってゆきます。古墳群を過ぎなだらかな稜線へ出て10時楠木氏の支城、平石城址へ到着、休憩後30分ほど登ると磐船神社に着きます。ここはこの後立ち寄り高貴寺から明治維新での神仏分離で分離されたそうです。10:50高貴寺山門をくぐり風情のある山寺境内に入る、高貴寺は役行者が草創した修験霊場の一つです。道はお寺を出て平石の集落方向へ下り平石峠へ続く細い林道を辿ります、この道は府道704号線で今は崩落等で車両などは通行不可能です。平石峠に12時着、岩橋山への階段上りの前に休息し登りに備えます。丸太の階段を小一時間登ると今日の目的地岩橋山へ13時着、あとは下るのみで岩橋峠から奈良県側に急な沢筋を下ります。昨年一昨年の豪雨の影響か、かなり倒木崩落が見られ歩きづらくなっていました、目印や踏み跡ははっきりしていますので迷うこともなく当麻寺駅に続く集落に出ました。車道を歩き15時当麻寺駅に着き解散としました。 記:山倉</p>									
連番	887	例会No.	一般600	内容	(ベーシック登山No.51)北摂・六個山(ろっかやま)	実施年月日	2019/5/19	担当者	野原、前田	
参加者	野原勇、前田守、西村美幸、和田都子、西村晶、翁長和幸、村木正人、脇本勇二、飯尾廣子、寺島直子、保木道代、大森朋江、曲佳代子、奥村静、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代							参加者数	17	

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

<p>担当者 コメント</p>	<p>一般例会No. 600の記念例会。雨天中止等した例会もあって実施回数600回目ではありませんが、EPEクラブとして16年余りの歴史を刻んできた積み重ねが600回ということです。今回は体験参加の2名を含めた17名の例会となりました。出発地点の箕面駅前に立って意外だったのが計画段階では予想していた混雑がないこと。人混みを覚悟していただけにやや拍子抜けした気分だ。混雑するのは秋の紅葉シーズンだけだろうか。この時間帯では駅前から続く箕面大滝までの滝道を往復するランナーや、犬を連れて散歩をする人が目立つ程度。唐人炭岩直近の階段からスタート。稜線まで標高差150m余りの急登を経て箕面山頂上に至る。箕面山頂上は樹林帯の中で展望はないが、木々の間を通り抜ける風が気持ちよい。その後三国峠を経て林道開拓工事箇所や箕面ゴルフ場フェンスに沿って南下。一旦林道に降りてやや急な登りを経て六個山頂上。六個山頂上は広場になっていてベンチやテーブルだけでなく、腰かけられる丸太も設置される等休憩場所として整備されていました。頂上で40分余りの休憩後、今度は池田ゴルフ場の脇を通って壘園上の展望台へ。遠く六甲山や梅田、あべのハルカスなど大阪市内のビル群だけでなく、眼下に伊丹空港を離着陸する飛行機も見渡せました。再度ゴルフ場の周回道路を経て五月山の「日の丸展望台」到着。やや大層なネーミングだが、ここを含めてもこのコースは展望台がやたらと多い。その後、炭焼き小屋コースを経て市街地を通り抜け池田駅へ。今回のコースは標識なども数多く設置されていました。熱中症に気を付けるシーズンに入りますが、今日は日差しも優しく樹林帯では涼しい風が吹き抜ける爽やかな一日でした。 記:野原</p>									
<p>連番</p>	<p>888 例会No. OP276</p>	<p>内容 高野七口・大峰道</p>	<p>実施年月日 2019/5/25~27</p>	<p>担当者 杉本</p>						
<p>参加者</p>	<p>杉本康夫、保木道代、安岡和子</p>								<p>参加者数 3</p>	
<p>担当者 コメント</p>	<p>5/25 急遽2人が参加できなくなり3人で出発する。週間天気予報では三日間雨の心配がないようだ。ルートは先週の18、19日に奈良県主催の弘法トレイルランが催されたのでトレイルラン用のテープも残っていて迷うことがない。しかし地図は必携です。整備されたとはいえルートは尾根筋を忠実に辿っているのでアップダウンで厳しいものがある。扇形山までの途中で金剛・岩湧山の山並みが見え「あれが岩湧山だ～」とうれしい気持ちになる。扇形山から先は地図上に点線がないが、この箇所が山上ヶ岳から遠く八経ヶ岳まで望まれて最高のビューポイントです。天狗倉山から今日の泊り地に下るのだが地図上には点線が出てはいるが道がない。方向を見定めて尾根を下り適当なところで林道に降り立つ。今日の泊り地の南日裏家族旅行村から徒歩約10分のところに天ノ川温泉があり今日の疲れを癒やしました。 5/26 昨日降りてきた天狗倉山からまでの舗装された林道の上り返しです。天狗倉山から武士ヶ峰付近までは「熊出没注意」の表示や「クマ谷」という名称の沢があることから緊張するところです。休憩もそこそこ先に進む。武士ヶ峰手前のコルから乗鞍岳手前までは林道が付けられていて、トレイルランはそこを走っている様だ。私たちは尾根筋を武士ヶ峰までブッシュの中を登る。そこから北東にルートを取って林道に降りる予定であったが、武士ヶ峰に登ることができたが林道に出ることができず元来た道を林道まで戻ることになった。乗鞍岳は思っていたような大きな山で登り応えがあります。乗鞍岳を過ぎると今日の泊り地の「星の国」までまた林道歩きになる。天辻峠は交通の要衝であったそうで、江戸幕末の頃より天川・富貴・五條方面の物資の集散地として栄え峠付近は旅館、問屋などで一時は100戸を超すほどの賑わいがあったそうです。また天誅組も本陣を構えたそうです。「星の国」は敷地内に温泉もあり布団で寝られて最高の気分でした。 5/27 今日国道と林道歩きで始まりました。約1時間で出屋敷峠に到着。峠から高野山まで「高野山発見の道」として紹介されてその標識が所々に設置されている。またピークごとに山名標識が付けられているので自分の位置がはっきりわかる。この付近の山は9~10月が入山禁止となっていて「止め山」の表示がある。牛のタワまでは緩やかな起伏でそこからまた天狗木峠まで林道が続く。天狗木峠からはこの山行最後のピーク陣ヶ峰への登りとなる。峠に立つと目の前に大きな道路壁が立ちほだかりそこを左に回り込んだところが登り口となっている。山頂には金刀比羅宮が奉られていて今日までの3日の登山の無事を感謝し手を合わせる。三角点はそのから少し離れたところにある。ここから地図上の点線を辿るが、あまり歩かれていないようで藪漕ぎとなる。また斜面が崩落していてそこをトラバースしながら、ピンクのテープを頼りにどうにか道路に降り立つことができました。後はのんびりと奥の院まで歩き解散としました。歩いた距離は49.9Km、道迷いや怖い思いもしましたが充実した3日間でした。 記:杉本</p>									
<p>連番</p>	<p>889 例会No. OP277</p>	<p>内容 泉州山岳会創立80周年記念事業計画・1 奥又白沢 石田君、水田君の石碑回収登山</p>	<p>実施年月日 2019/5/25~26</p>	<p>担当者 西村(晶)、紀伊榎本(節)</p>						
<p>参加者</p>	<p>西村晶、紀伊榎本節雄、松田芳治、野原勇、村浪義光、森本善博、森本咲穂、(泉州山岳会)本田和史、大島稔、植辻康二、伊達香織</p>								<p>参加者数 11</p>	
<p>担当者 コメント</p>	<p>泉州山岳会の創立80周年の記念事業の一環として行われた山行です。詳しくは先に配られた小冊子、慰霊碑建立趣意書をご覧頂きご理解ください。さて、この日は快晴に恵まれたのが何よりも良かった。前日から午前も午後も澄み渡った青空に一片の雲も無く、穂高の山々が手に取るように眺められた。こんな素晴らしい光景があったのだろうか？ 哀しい出来事を追憶しながら、作業中の誰もがこの快晴に癒される思いがした。解体のあと、ずっしりと重い両君の石碑が若い会員の背で下された。自ら申し出て、交代で背負う女性会員もいた。熱い血潮が脈々と連なっていることが、背負われている両君にも解るだろう。愉快で朗らかで且つ勇敢でもあった60年前の青年二人は、さもはにかみ頬笑んでいることだろう。EPEクラブの皆さん、母体の泉州山岳会には、こんな生みの苦しみがあったことを、赤裸々にして申し訳ありません。他に何も書けないものですから。 記:紀伊榎本(節)</p>									
<p>連番</p>	<p>890 例会No. OP278-1</p>	<p>内容 泉州山岳会創立80周年記念事業計画・2 田中君、宮阪君、西尾君の鋳型プレート回収登山</p>	<p>実施年月日 2019/5/25~26</p>	<p>担当者 翁長、三原</p>						
<p>参加者</p>	<p>翁長和幸、三原秀元、秋田文雄、板谷佳史、山栴初好、岩垣寿治、(泉州山岳会)梶田誠寛、杉山僚、河合あづさ</p>								<p>参加者数 9</p>	



# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>上高地に来たのは数年ぶりになる。かっぱ橋から見る梓川や穂高岳は何度来ても素晴らしい。特に山に雪のある時期は。明神の慰霊碑は分りづらい所にあり、出かける前から気になっていた。しかし意外と早く見つけることが出来た。献花し黙とうの後プレート回収に取り掛かる。コンクリートは50年前のものとは思えない程固く頑丈である。交代しながら、たがねとハンマーでコツコツと作業を進める。ハンマーの一撃で壊せるのはコンクリート1mm程度だが、やるしかない。プレートの角付近の岩が1ヶ所崩壊した。がぜん勢いづき、やる気が出てきた。プレートは裏側に2か所ボスがあり、ボルトで固定されている。1本のボルトは外れたが、もう片方はガンとして動かない。いろいろ、やってみるがビクッともしない。浮いている片方の隙間にボールを入れ、おもい切りこじ開けてみた。プレートはコンクリートから外れたが表面に穴が開いてしまった。しかし回収は出来た。次にコンクリートと自然石を剥離する作業にかかる。自然石を残しコンクリート破片を集め下山した。およそ2時間の作業であったが、疲労感が大きかった。おおかたのコンクリートは回収したが、大岩の写真をパソコンでみて愕然となる。これが次週上高地を再訪する事になるのである。 記:翁長</p>								
連番	891	例会No.	OP278-2	内容	泉州山岳会創立80周年記念事業計画・2 田中君、宮阪君、西尾君の鋳型プレート回収登山2回目	実施年月日	2019/6/1~2	担当者	西村(晶)、翁長
参加者	西村晶、翁長和幸、村浪義光、西野勇治、杉本康夫、(泉州山岳会)木下春雄、田中克欣、細章人							参加者数	8
担当者コメント	<p>先週(5/25)慰霊プレートを回収し帰阪した。パソコンで画像を見ると、コンクリートで固められた頭(あたま)大の岩が5~6ヶ識別できた。「プレート台座石のコンクリートを除去し、自然に戻す」という事が出来ていなかった。従ってもう一度、上高地に出かける事となった。今回は完璧にコンクリート片を除去し、大岩を自然に戻さなければならない。その為大ハンマーを持参した。9時過ぎ作業開始。大ハンマーの破壊力は素晴らしく、9時半ごろにはコンクリートで固定されていた、すべての岩が解体された。台座になっていた大岩の表面がついにあらわになった。細かなコンクリート片を除去し、水できれいに大岩を清掃。自然石にこびりついたコンクリートを砕き残滓を集め下山した。 記:翁長</p>								
連番	892	例会No.	OP279	内容	九重、大船山と由布岳	実施年月日	2019/5/30~6/2	担当者	前田、大石
参加者	前田守、大石隆生、板谷佳史、北山かな、安岡和子、保木道代、飯尾廣子、安本昭久、安本嘉代、上野あさみ							参加者数	10
担当者コメント	<p>5月31日 別府でレンタカーを借りて由布岳登山口へ。登山口から綺麗な三角錐の由布岳が良く見える。背の低いササ原を過ぎて、樹林帯に入るころ、小雨が降りだす。飯盛ヶ城の分岐を過ぎるとジグザグの道で、登りやすい。所々ミヤマキリシマが綺麗に咲いている。マタエから山頂のお鉢巡りを行う。最初障子戸と呼ばれるスリル満点の岩場を登ると西峰に着く。ここが最高点だが岩場が有るので、東峰が一般的に山頂になっている。その後すり鉢状の噴火口跡を岩場の登り降りを繰り返して東峰に着いた。山頂から鶴見岳や別府湾、反対側は湯布院の街並みがよく見えた。マタエから往路を引き返す。由布岳は初心者向け(易しい)とお鉢巡り(難しい)の両方持っている、登ってよし、眺めてよし、のいい山だった。下山後筋湯温泉へ移動した。</p> <p>6月1日 九重はミヤマキリシマが咲く頃は渋滞すると聞き、筋湯温泉を4時半に出る。登山口の長者原に5時前に着いた頃、駐車場がほぼ満杯だった。新緑の美しい樹林帯を行くと草原状の坊がつるに着く。カラフルなテントが一杯張ってあり、人が多い。稜線から急登を行くと大船山山頂に着く。北大船山斜面はミヤマキリシマが綺麗に咲いていた。山頂から九重連山や阿蘇、祖母山までよく見えた。下山は往路を引き返す。帰り別府温泉に入湯後帰路に着いた。九州には良い山や温泉がたくさん有り、遠いようでフェリーやレンタカーを活用すれば、効率良く、安く行けるので又行きたい。 記:前田</p>								
連番	893	例会No.	一般601	内容	京都一周トレイルー5・西山	実施年月日	2019/6/9	担当者	板谷、野原
参加者	板谷佳史、野原勇、和田都子、大森朋江、杉本康夫、佐野雅美、喜多田恵美子、片山純江、安岡和子、飯尾廣子、前田守、渡辺健、脇本勇二							参加者数	13
担当者コメント	<p>もみじの若葉が清々しい高雄からスタートする。トレイルの設定では清滝までは北山部となっている。清滝川に沿った溪谷を行くと1ピッチで清滝、ここからのコース設定は京都・西山部となり標識番号は改めてNo. 1から始まる。やがて川幅が広がって落合に到着、ここからは川の名前が変わって保津川となる、この先からコースは舗装路となるので、その前に昼食休憩とする。保津峡を見下ろすまで車道を登ると六丁峠、やがて化野へと下って行く。嵯峨の観光通りからトロッコ嵐山駅付近にかけては観光客で思うように歩けない人波となる。嵐山で更に川名が変わって桂川の岸でゆっくりした後、渡月橋から嵐山駅へと向かう。その先にひっそりと控えめに松尾山登山口があり、再び山道へ。本日唯一の登山らしい部分に一汗かいて松尾山山頂に立つ。樹林の切れ目から5回にわたって歩いてきた京都市街を取巻く山々が眺められた。後は下る一方で阪急上桂駅に出ました。どんよりした曇り空の一日でしたが、梅雨入り前の爽やかなハイキングでした。 記:板谷</p>								
連番	894	例会No.	一般602	内容	六甲・逢山峡~雲ヶ岩	実施年月日	2019/6/16	担当者	大石、森本
参加者	大石隆生、森本善博、北山かな、保木道代、飯尾廣子、駒井万生子、大森朋江、西向美保子							参加者数	8
担当者コメント	<p>徐々に例会で六甲の裏側から主稜線を越えて表側へと歩きました。稜線を越えるまでは樹林帯で展望が効かずお天気の良い日も何となく薄暗い感じがしましたが、稜線を越えてからは展望が開け明石大橋や阿倍野ハルカス等のランドマークも眺めることができ明るく感じました。唐櫃台の住宅街から逢山峡に沿った林道を進み、その終点から整備されていない感じの登山道を登っていく。コアジサイやヤマボウシを眺めながら急な斜面を仙人窟跡へ。ここでのお昼休憩の後、熊笹の中の踏跡を辿って別荘地へ。雲ヶ岩への登り口で、今回の例会で初めての道標を見つける。ここまで道標を見かけなかったことを考えるとマイナーなコースを登ってきたのかなと思う。樹林帯に点在する雲ヶ岩や仰臥岩等の磐座を巡り、再び別荘地を通り抜け車道を天狗岩へ。大阪湾を見下ろすように展望を楽しんでから天狗岩南尾根を下る。急降下で寒天橋に着き、バスで駅に向かうJR組と歩いて駅に向かう阪急組に分かれるため、ここで解散とした。 記:大石</p>								

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

連番	895	例会No.	OP280	内容	北飛驒・天生峠(あもうとうげ)から天生湿原と靱糠山(もみぬかやま)	実施年月日	2019/6/22~23	担当者	山倉、小椋(勝)	参加者数	8
参加者	山倉康次、小椋勝久、黒澤百合子、村木正人、村木とも子、北山かな、板谷佳史、脇本勇二									参加者数	8
担当者コメント	<p>6月22日 難波南都銀行前で車2台に分乗し8時出発、渋滞もなく昼頃には白川郷ICを出て蕎麦屋で昼食、まだ時間があるので庄川最上流にある日本屈指のロックフィルダム御母衣ダムを見学に行き、ダムサイトの記念館で時間を過ごす。今日宿泊予定の合掌民宿に到着後は夕食まで自由時間としました。</p> <p>6月23日 心配していた天候も今日は良好のようです、5時半に朝食を済ませ、6時に民宿を出発、国道360号線を約30分で天生峠駐車場(標高1290m)に到着、入山手続きを済ませ6時40分天生湿原に向け出発しました。20分ほど普通の登山道を辿ると天生湿原に出ます。ミズバショウの時期は遅かったようです、ここから奥へ進むと手厚く保護された領域になります。7:20カラ谷分岐着(1360m)、コースは3方向に分かれます、いずれもほぼ水平の太古の森の探勝路となっていますが、出会える自然がそれぞれ違います。登りは中心を登るカラ谷登山道を登ります、途中カツラ門と言われるカツラの巨木に出会えます、ブナの巨木も現れ、幅2メートルほどの溪流には15cmほどの岩魚が2尾悠々と泳いでいます。8:13靱糠山へ向かう分岐(木平分岐標高1520m)着。ここからは急な登りを2回で靱糠山に9:10着、下りはブナの原生林を辿り11:10登山口で下山し解散としました。記:山倉</p>										
連番	896	例会No.	一般603	内容	播磨・鎌倉山行者道	実施年月日	2019/6/23	担当者	杉本、前田	参加者数	4
参加者	杉本康夫、前田守、保木道代、寺島直子									参加者数	4
担当者コメント	<p>鎌倉山行者道は明治になってから普光寺住職により鎌倉山に連なる峰々に開かれたそうです。「鎌倉山行者道」の標識と道標のある民家の横を抜け、余り人が歩いていないような道を登っていくと山岳宗教的な手作りっぽい行者像が現れる。不動明王像や普賢菩薩像から鎌倉山まで色々な菩薩様の像が現れ、行者道を感じられます。東ののぞきまでの道のりではあちらこちらで普光寺に降りられるように道が付けられている。東ののぞきに立てば遮るものが何もなく眼下には河内町や加西市の街並みが一望の下見渡せる。陽があたるところでは暑いルート全体が樹林の中なので風が吹くと気持ちが良い。柳峠付近で2人連れの登山者にすれ違った以外誰とも会わず静かな山行でありました。鎌倉山の山頂には「法起大菩薩」の像が奉られていました。そこには屋根付きの椅子があり双眼鏡が設置してあり無料で覗けるようになっていました。ここからは六甲の山並みや明石海峡大橋、淡路島まで望まれます。鎌倉寺は手入れはされているようですが、参道の石段は少し荒れていて歩きづらいです。獣よけの柵をくぐると鎌倉谷に出て田植えの終わった田圃が目にと優しく映ります。天気予報では昼過ぎに一時雨の予報が出ていたが予報通り一時的に雨が降りすっきりした天気ではなかったのが残念です。記:杉本</p>										
連番	897	例会No.	OP281	内容	武庫川・西ノ谷 沢登り講習会	実施年月日	2019/6/30	担当者	大石、山倉	参加者数	
参加者										参加者数	
担当者コメント	雨天中止										
連番	898	例会No.	OP282	内容	北陸・赤兎山	実施年月日	2019/7/6~7	担当者	小椋(勝)、板谷	参加者数	10
参加者	小椋勝久、板谷佳史、脇本勇二、村木正人、村木とも子、安岡和子、上野あさみ、保木道代、大森朋江、村浪義光									参加者数	10
担当者コメント	<p>7月6日 思っていたより渋滞はなくスムーズに取立山登山口に到着。ここ最近天気は雨が降ったりやんだりでありよくない状況が続いていましたが、取立山に着くと曇り空だが、まずまずの天気早々に挨拶を済ませ、登山開始。大滝コースから頂上へと向かう。大滝は最近の雨で水量が多く迫力がある。最初のピークこつぶり山(1264m)に着くころから笹ユリが出迎えてくれる。こつぶり山からの白山の眺望はなく残念だが昼食を済ませ取立山に向かう。鮮やかなピンクのユリを鑑賞しながらの尾根道は快適で気持ち良い。</p> <p>下山後、泊地「東山いこいの森」に向かう。東山いこいの森の番人は羽曳野市に住んでいたこともあり杉本リーダーとは縁深く去年来たことや10年前のEPE例会のことも良く覚えていてくれました。夕食はBBQ、初めての試みでしたが皆さん楽しく美味しく笑顔が絶えませんでした。E=エンジョイを堪能しました。東山いこいの森番人のブログ7月7日参照 ※すずしやと 風のたよりを尋ねれば しげみになびく 野べのさゆりば 式子内親王</p> <p>7月7日 朝6時に泊地を出発。大長山登山口へと向かう林道はゲートがあり7:00開門ですが交渉し、6:30頃開けてもらう(環境保護協力金:一人400円)。案の定、登山口駐車場は私たちが一番乗りで誰もいない。挨拶を済ませる頃には車が入ってきた。ただらと小原峠までの登山道を登っていくが暑い、小原峠から大長山に向かう。大長山の登りはただらと続く上り坂、途中足場の悪いところもあり雨が降ったら大変だと思っていたが薄日が差す空模様、皆さんの足取りも軽く予定通りの時刻9:30で山頂に着く。山頂付近はニッコウキスゲが咲き乱れてとてもきれいでした。しばらく花を眺め下山する。小原峠から赤兎山に向かう。霧の多い天気で赤兎からの眺望は皆無、仕方なく避難小屋に向かう。避難小屋に着くころに偶然、薄日が差し始め霧がない状態にニッコウキスゲと小屋と赤池を見ながら帰途に着く。今回梅雨の真ただ中でしたが雨に降られなかったことは幸運でした。記:小椋(勝)</p>										
連番	899	例会No.	一般604	内容	泉南・昭台山~四石山	実施年月日	2019/7/7	担当者	翁長、森本	参加者数	13
参加者	翁長和幸、森本善博、飯尾廣子、西村晶、西村美幸、安本昭久、安本嘉代、三原秀元、前田守、西向美保子、喜多田恵美子、片山純江、佐野雅美									参加者数	13

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	つづら畑でバスを降り、根来街道を地下歩道で登山口へ。小さな木の案内板があるが字は読めない。川上新道と書かれていたと思われる。谷筋から尾根に取りつく。アップダウンの繰り返しで楠峠へ。ここまでは雑木林の山道。およそ2時間かかったが一切展望はない。この峠もうっそうとした藪の中。昭和山は近いが雑木の自然林がまだ続く。11:50山頂着。山頂近くから一瞬、和歌山方面の展望があった。この時だけである遠くを見渡せたのは。樋の子峠からはハイキングコースとして整備されているようだ。14:30四石山着。頂上は切り開きが少しあり、丸太のベンチも用意されていた。今日のコースでは、ここが青空を見渡せる唯一の場所であったかも。歩きやすい下山コースを、水の流れている沢まで下ってきた。わんぱく公園に登り返す地点である。私たちはコースから外れ、この沢にそって下る事にした。歩きづらい古い林道から熊野街道に出て、車に注意しながら山中溪駅へ。今日のコースは、ほとんどが雑木の自然林であった。しかし歩くには支障のない程度の藪で、おかげで日差しが少ない葉陰を歩く事が出来ました。木々の間から、ときおり吹いてくる風が冷たく、心地の良いものであった。誰とも会わない一日でしたが、歩いてみてその理由が判ったような気がします。真夏にはお勧め出来ないコースです。記:翁長										
連番	900	例会No.	OP283	内容	北アルプス・大日岳	実施年月日	2019/7/13~15	担当者	山倉、森本		
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	901	例会No.	一般605	内容	金剛山 丸滝谷	実施年月日	2019/7/14	担当者	前田、杉本		
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	902	例会No.	OP284	内容	室生・竜鎮溪谷(深谷)遡行	実施年月日	2019/7/21	担当者	板谷、山倉		
参加者	板谷佳史、山倉康次、上野あさみ、古松育代、駒井万生子、村木とも子、安岡和子、前田守									参加者数	8
担当者コメント	台風5号の影響を心配したが、雨無しの予報に従って予定どおり実施した。竜鎮滝はパワースポットとして人気の場所ということで結構ハイキング姿の人が訪れている。簡単なコースだが、6/30の沢登り講習会が中止だったこともあり、復習も兼ね全装備着けての入谷となりました。普段より水量は多いのではなかろうか?何度も渡渉を繰り返しながら遡って行く。快適なナメ床が現れると近場で良い谷があると実感できる。竜鎮滝以外は悪場もなく単調に流れを遡るだけ。水量が減ったあたりでハイキング道に逃げたが、台風被害以来あまり歩かれていないという道になる。室生へ抜ける予定にしていたが、道探しに苦労しそうで省略することに・・。ハイキング道を元の竜鎮橋へと戻ることになりました。帰りは室生ダム見学経由の道をとりのおんびりと駅へ戻りました。記:板谷										
連番	903	例会No.	OP285	内容	泉州山岳会創立80周年記念事業計画・3 川上君、淡中君の銅版プレート回収登山	実施年月日	2019/7/27~28	担当者	本田、西村(晶)		
参加者											
担当者コメント	雨天延期										
連番	904	例会No.	一般606	内容	武奈ヶ岳	実施年月日	2019/7/28	担当者	杉本、野原		
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	905	例会No.	一般607	内容	(ベーシック登山No.52)和泉山脈・雨山~松尾山	実施年月日	2019/8/4	担当者	翁長、小椋(勝)		
参加者	翁長和幸、小椋勝久、片山純江、村木正人、村木とも子、前田守、飯尾廣子、池田える子、和田敬子、西向美保子、喜多田恵美子、大森朋江									参加者数	12
担当者コメント	今日も暑くなりそうな朝であった。里山の原風景のような田んぼ道を登山口へ。ひと汗も、ふた汗も出た頃雨山頂上へ。頂上から永楽池までは、ザレ場の尾根がつづき展望が良い。なかなか気分の良い尾根道である。直射日光にあぶられてモーレツに暑い、時おり吹く風に気持ち落ち着く。永楽池でランチタイム。池のたもとのお地藏さんにお参りし松尾山へむかう。ほとんど人が歩かれていないのか、クモの巣がひどい。339.3mへ続く尾根道は立ち入り禁止のチェーンが張ってあった。仕方なく永楽池から松尾山に突きあげている沢筋に入る。小さな滝から上部には真新しいトラロープが数か所フィックスされていた。沢底より松尾山までの登り200mがツラかった。暑くてペースが上がらない。3時ごろ松尾山着。四足(したる)林道の分岐で少しまごつくが林道を経て中大木バス停へ。今回の最高点は406mです。楽勝気分が出かけたのですが、この日の大阪の最高気温は34.7度。暑さに慣れていない我が身には厳しいものがありました。記:翁長										
連番	906	例会No.	OP288	内容	比良・獅子ヶ谷遡行	実施年月日	2019/8/11	担当者	板谷、山倉		
参加者	板谷佳史、山倉康次、古松育代、駒井万生子、村木とも子、安岡和子、前田守、保木道代、脇本勇二									参加者数	9

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	連日酷暑が続く中、連休で満員の湖西線でしたが、山の日にもかかわらず乗っている登山者は非常に少ないようでした。それでも我々は涼を求めて沢に向かいました。汗だけで登山口へ辿り着きましたが、沢水に足を浸けたとたん暑さは消し飛びました。楊梅ノ滝は下部に雌滝、上部に雄滝と分かれるが、いずれも直登は難しいので左右いずれかを巻き上がることになる。雌滝(15m)は右岸を簡単に巻ける。問題の雄滝(43m)だが一旦右岸の登山道に出てから落ち口に戻れば簡単だがごく普通の登山になってしまうので、あえて今回は左岸の踏み跡を拾って高巻くルートを取った。残置ロープも見かけたので使われてはいるようだが、岩場もまじえ3ピッチほどロープを使用した。高巻くと再び流れに戻るのに苦労することが多い、今回も不安定なトラバースに苦労した人もいました。その後は簡単なシャワークライムとナメの遡行が待っておりキャーキャー言いながらの沢歩きでした。 記:板谷								
連番	907	例会No.	一般608	内容	金剛山・ツツジオ谷	実施年月日	2019/8/18	担当者	大石、森本
参加者	大石隆生、森本善博、安岡和子、飯尾廣子、保木道代、黒澤百合子、大森朋江、佐野雅美、上野あさみ、寺島直子、脇本勇二、山倉康次、村木とも子、森本咲穂							参加者数	14
担当者コメント	曇ってはいなくても街では猛暑日のようでしたが、谷の中は日陰で流れに沿っていることもあって涼しく登ることができました。登山道も予想していたほど荒れておらず、金剛山中とは思えないような幾つかの多段の滝を眺めることができ、ロープが張られた岩場や高巻きと変化があって楽しめました。金剛登山口バス停から黒梅林道への道を進み、途中で枝道にそれてからツツジオ谷に入る。流れに沿った登山道を、時にはロープや木の根を掴みながら登っていく。腰折滝を過ぎ砂防ダムを幾つか越すと、多段の滝が3つ現れる。何れも右岸を難なく高巻くが、流れ落ちる木に涼しさを感じる。登るにつれて水量も少なくなり、タカハタ道への分岐を過ぎてしばらく登ると登山道は途切れる。目印のテープを追うように岩が積み重なった谷を詰めるうちに、山頂広場下の橋へ出る。ここで千早本道と合流し、山頂広場に向かう。山頂広場でのお昼休憩後、岩屋文殊を経て急斜面と緩斜面が交互に現れる文殊尾へ。植林帯で風がなく、谷の中は涼しかったのにといいながら下るうちに馬場谷に入りバス道へ出る。ここで、歩いて金剛登山口バス停へと戻る現地集合組と分かれるため解散とする。 記:大石								
連番	908	例会No.	OP289	内容	台高・尾鷲道「近畿の山リレー登山No.1」	実施年月日	2019/8/24~25	担当者	杉本、大石
参加者	杉本康夫、大石隆生、板谷佳史、北山かな、安岡和子、保木道代、黒澤百合子、三原秀元、岩本和行							参加者数	9
担当者コメント	8月24日 大台ヶ原到着後周辺散策と例会案内に出したものの、何をしようと思案していたが、東大台周遊コースを歩くことにした。一周4時間かかり大台であっても夏はそれなりの暑さで一汗も二汗もかくことになった。このコースはなんとと言っても大蛇窟。谷に向かって緩傾斜の下りになっていて象の背中に乗ってる様で周りに柵がしてあっても緊張するところです。大台ヶ原は鹿が多く鹿害があると聞いていたが今日は余り見かけず、日出ヶ岳付近で親子連れを見た程度であった。小屋には風呂もあってくつろげて、明日の尾鷲道の踏破に向けて早々に就寝する。 8月25日 今日は近畿の山リレー登山の第一回目である。天候を心配していたが前夜の予報を見ると昼前には晴れ間ものぞくとのことなので一安心。夜中に雨が降ったものの出発する頃にはうす曇りで気分よく出発する。約30分で尾鷲辻に到着。ここから尾鷲道に入るが、歩く人が少ないようで踏み跡程度になっている。木の根っこや石がゴロゴロしているが標識やテープが程よくあるので問題なく歩くことができる。コブシ嶺の山頂は木々がなく展望が開けて今まで樹林の中を歩いてきたので感激ものです。目の前には竜口尾根や大峰の山、足下には坂本貯水池も見渡せる。椋山林道との分岐を過ぎP1053m手前コルの古和谷への下降点からは通る人もより少ない様でルートがわかりづらくなってきた。古和谷へ降りるとしばらく左岸を下り右岸への徒渉ポイントに着く。徒渉用の靴も用意したが、登山靴で難なく通過することができた。ヤマビルも見かける様になり、メンバーの一人の足にヒルが着いていたが、みんながヤマビル対策もしていたので被害がすくなくて済んだ。ここからトロッコ道になるが非常に荒れていて登山道以上に気を遣う。出発から9時間30分でクチスボダムに到着。この後尾鷲湾まで行き、尾鷲湾の海水をなめて三原さん曰く「やっぱり塩辛いな」 記:杉本								
連番	909	例会No.	OP286	内容	泉州山岳会創立80周年記念事業計画・4 宮本君の銅版プレート回収登山	実施年月日	2019/8/31~9/1	担当者	本田、森本
参加者								参加者数	
担当者コメント	雨天延期								
連番	910	例会No.	一般609	内容	鶏冠山~竜王山	実施年月日	2019/9/1	担当者	翁長、大石
参加者								参加者数	
担当者コメント	雨天中止								
連番	909	例会No.	一般610	内容	堂山	実施年月日	2019/9/8	担当者	翁長、野原
参加者	翁長和幸、野原勇、村木とも子、前田守、峯岡宣重、黒澤百合子、大森朋江、喜多田恵美子、安本昭久、安本嘉代、安岡和子							参加者数	11
担当者コメント	今日も暑いハイキングになりました。バス停から南方向に3つの小さく尖ったやぶピークが見える。多分、堂山だと思われる。低い山である。村の中を抜け山道に入ると、六甲山の荒地山を思わせるようなゴツゴツした岩が点在している。頂上へはコースから寄り道をするような感じで右折。今日のポイントはここから始まる。岩と岩の間を攀じ登り、下り、トラロープに助けられたりして、ピークを2~3越えると堂山山頂であった。中々変化のある所で気がまぎれて暑さを忘れる。鎧ダムは階段状の堰堤と似た感じですが、明治22年にオランダ人技師によって造られた歴史的土木構造物との事でした。良く分かりませんが、大層なものらしいです。迎不動には14:30着。ここから30~40分歩いてアルプス登山口バス停へ。今日もやっぱり暑かったです。 記:翁長								

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

連番	910	例会No.	OP290	内容	中央アルプス 越百山、南駒ヶ岳、空木岳	実施年月日	2019/9/6~9	担当者	前田、小椋(勝)	参加者数	
参加者	雨天中止										
担当者コメント											
連番	911	例会No.	OP285	内容	泉州山岳会創立80周年記念事業計画・3 川上君、淡中君の銅版プレート回収登山再実施	実施年月日	2019/9/7~8	担当者	本田、西村(晶)	参加者数	15
参加者	山杣初好、永井文雄、西村晶、(泉州山岳会)本田和史、梶田誠寛、松浦善広、牧村市和、林真理、大島稔、安部泰子、関田渉、吉實千晴、伊達香織、楠寿美、市川博史										
担当者コメント	前日の夜半より雨が降り出したので増水が心配でしたが 翌日は晴れ間も見えて一安心でした。川上君のプレートは川床より3メートル程上部に取付けられており足場が無いのでタガネを打ち込みセルフ用にハーケンを打ち込んでの作業でした、51年前のコンクリートは固くて頑丈で崩すのに苦労しました。2時間程でやっと岩から外す事が出来ました。淡中君のプレートは林道横に取付けられており足場も安定していたので15分程ですんなりと岩から外す事が出来ました。持参したお花とお酒とビールを手向けて迎えに来ましたと伝えました、大きなハンマーを振りかざして一生懸命に岩を砕いて作業していただき、皆さんありがとうございました。 記:西村(晶)										
連番	912	例会No.	OP287	内容	泉州山岳会創立80周年記念事業計画・5 下元君の銅版プレート回収登山	実施年月日	2019/9/15~16	担当者	西村(晶)、永井、野原	参加者数	12
参加者	西村晶、永井文雄、野原勇、翁長和幸、杉本康夫、板谷佳史、山倉康次、森本善博、村浪義光、岡部一郎、(泉州山岳会)本田和史、杉山僚										
担当者コメント	1979年9月15日、25歳と23歳の若者2人が奥鐘山の犬岩壁の登攀に胸を躍らせながら、黒部川を渡渉中に事故が起き、下元君が帰らぬ人となって、ちょうど40年後の2019年9月15日。我々12名は、下元君を迎えに紺碧の秋空のもと黒部川に降り立った。彼が、我々の為に安全に山行ができるよう最高の天気を用意してくれたのだと思う。宇奈月駅から朝1番のトロッコ電車に乗り、終点の樺平駅に降り立つ。以前は、ホームのドンつまりから、第三発電所の横を通り、黒部川に降り立ったが、今回、駅長に交渉するも今は一切認めていないとのこと。そのため、一旦、駅改札を出て、猿飛峡への階段を下り、足湯のある樺平河原から黒部川を遡行することとする。しょっぱなから腰上までつかり、時には流れの早い急流を数人で肩を組んだりザイルを固定して渡渉するなど、遡行すること約1時間。現場近くに着き、プレートを探すがなかなか見つからない。上流下流200m前後に渡って皆で探し回すが、それでも見つからなかった。何回も黒部川側壁を見渡した結果、ブッシュに隠れている「こしかないなあ」と見当をつけたところを、再度登り探したところブッシュに覆われた壁に下元君のプレートを発見した。40年経過しているが、きれいな銅板のままである。4か所のボルトで止めた銅板をはずし、河原に銅板と、供花、酒、ビールを供え、皆で合掌。現場を後にし、1時間で樺平に着く。その日は、12名全員が立山のゲストハウスに泊まり、翌朝、現地解散とする。今回、OB10名、現役2名の計12名の仲間に参加して頂き、無事プレートを回収することができましたが、このプレートが塚に建立される慰霊碑に納められることで、今後はいつでも彼に会いに行くことができます。40年前の事故を起こした当事者である私としては、泉州山岳会及び会員の皆様に感謝しかありません。本当にありがとうございました。 記:永井										
連番	913	例会No.	OP291	内容	鯖街道(福井・小浜~滋賀~京都・出町柳)「近畿の山リレー登山No.2」	実施年月日	2019/9/21~22	担当者	野原、小椋(勝)	参加者数	9
参加者	野原勇、小椋勝久、佐野雅美、黒澤百合子、三原秀元、喜多田恵美子、村木とも子、安本嘉代、保木道代										
担当者コメント	例会実施2日前の19日に台風17号が発生、翌日には大型台風に成長。実施前日まで台風の動きにやきもきさせられました。が、例会期間中は近畿地方への大きな影響はないと読み、計画通り雨天決行としました。9/21(土) 小浜駅に到着後、小浜海岸に直行。日本海に手を浸したり舐めたりと思い思いに過ごし証写真写真を撮り。その後、いづみ町商店街に移動し「鯖街道始点」の床プレートを踏みしめる。午後からの遅いスタートになったため、鯖街道の根来坂登山口までタクシー移動、午後1時過ぎから登高開始。鯖街道は鯖等の海産物を背負って歩いたルートということで甘く見ていましたが、結構な登りが続きます。根来坂<若狭側>から針畑峠を経て根来坂<近江側>へ。茅葺き屋根を吹き替え中のダルマサンガ朽木学道舎(禅道場)の前を通り初日の宿「山帰来」へ。当初見込んでいた時間帯に到着、宿の方手作りの料理に舌鼓を打ちました。9/22(日) 宿の前から路線バスに手を上げて合図。この辺りの路線バスはフリー区間ということで手を上げればどこでも乗車可能。降車もバス停ではなく途中の川合橋で下車。バスを降りて2Km余りの車道歩きで久多下の町到着。トイレ休憩を済ませ、林道歩きとなる。オグロ坂を通り八丁平(高層湿原)のヘリを巻き、フノ坂峠を経て二ノ谷管理舎到着。ここから長い車道歩き、尾越の集落を過ぎ、大見で奇妙な一行に出会う。帰宅して調べると50年程前に廃村となった大見の地で新しい村づくりを目指した「大見新村プロジェクト」の一環らしい。我々が出会った行列は、倒壊した「思子淵神社」を1年前に自力再建した若者たちによって行われた結婚式から帰る巡礼者(精霊)達の一行。最初は奇想天外、奇抜な衣装行列にびっくりしたが皆が笑顔に溢れていて我々も楽しくなる。京都の山奥で新しい村おこしを目指す若者たちの心意気を感じました。その後大見尾根を進み、杉ノ峠を経て花脊峠到着。路線バスで出町柳駅まで乗り、下車後出町柳西詰に立つ「鯖街道口」の碑前で解散。この例会を通して感じたことは、昔の人は我々がタクシーや路線バスに乗った区間も歩き通したわけで「昔の人は凄かった!偉かった!」ということを感じた例会でした。 記:野原										
連番	914	例会No.	OP286	内容	泉州山岳会創立80周年記念事業計画・4 宮本君の銅版プレート回収登山 再々実施	実施年月日	2019/9/28~29	担当者	西村(晶)、本田	参加者数	

# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

参加者	西村晶、村浪義光、岡部一郎、(泉州山岳会)本田和史、梶田誠寛、寺西正恵、大島稔、市川博史				参加者数	8			
担当者コメント	<p>湯俣より水俣川を遡り千天出合までが今回の核心部で、距離は3Km程で3時間の予定です。天候が雨の予報で2回も中止になり、今回も中止となると10月の沢は冷たくなり厳しさを増します。ルートのはトップは大島さんと本田さん 川幅が広くて水深の浅くて緩やかな所を指示しますが、対岸に渡る所は流れも強くて深い所ばかりです。昔の登山道は消滅しているので見つける事が出来ない、迷うことも無く渡渉を繰り返す、水温はそんなに冷たく無い。20数回の渡渉を繰り返して千天出合にたどり着く。レリーフの設置場所は末端を少し千丈沢側に入った所と明記されていたので手分けして探すのがなかなか見つけれない。ホーホイのコールの後に、あったよーのコールが聞こえた時は体の力が抜けました。持参したお花とお酒を手向けました、やっと迎えに来たよと伝え、全員で黙とうを行いました。帰日も渡渉を繰り返して早い時間に湯俣に到着しました。高瀬ダムより七倉までタクシーで移動してから大町の薬師湯に向かいあったかいお湯に浸かりました。宿泊先のコテージは大きなログハウスで石組みのお風呂には温泉が準備されていました。皆さんのご協力ですべて予定した慰霊石と慰霊プレート全て回収する事が出来ました、ありがとうございました。 記:西村(晶)</p>								
連番	915	例会No.	OP292	内容	東北・岩木山と白神岳	実施年月日	2019/9/28~10/2	担当者	板谷、杉本
参加者	板谷佳史、杉本康夫、上野あさみ、脇本勇二、安岡和子、大森朋江、渡辺健、北山かな				参加者数	8			
担当者コメント	<p>9月29日 弘前駅で早朝を過ごし、7:00にジャンボタクシーに乗る。岩木山スカイライン入口で8時の開通を待ち八合目へ。下界は気持ちよく晴れていたが上部はガスの中、風も強い、小雨も混じるので雨具姿で登山開始。よく整備された登山道で1時間と少々でガスで視界不良の山頂に立った。しばらく休憩の後下山に移る、こんな天気でもさすがに登山者は多いが皆さん八合目からの往復カプソを使って更に楽に登っている。我々は下まで徒歩下山となる、八合目からは人は少ない。予定通りの時間で嶽温泉に下り、再びジャンボタクシーのお世話になり鯉ヶ沢経由の国道101号で十二湖リフレッシュ村(キャンプ場)へ移動する。6名用のログハウス1棟に8名入って寝具、調理設備一式の他、冷暖房完備、シャワー、テレビ等付いて割安でした。</p> <p>9月30日 ログハウスを後に白神岳の登山口へ向かう。登山口の表示は崩山となっておりそこまでは確かにりっぱな登山道だったが、そこを過ぎると俄然笹のかぶさり方が酷くなる。木道や木の階段が混じったりして踏み跡は明瞭でかつては整備された登山道だったことををうかがわせるが今や深い笹で覆われてかき分けながら進むようになっている。鯉山コースの整備された道と出会ってほっとする。しかし10月10日に改修工事完了予定という避難小屋の姿は未だ全く無く、資材が山積みされているのみ。工事が予定より早く終わって使えぬかも？との淡い期待は完全に消えて山頂に立つ。そうなると思いつつ登山口に着かねばと下山を急ぐが、次の宿泊地候補である登山口の休憩所に着いた時にはすっかり暗くなっていた。それでも休憩所が使えたので本日2回目のほっとする時間でした。</p> <p>東北でも青森の山となると、空路以外では大阪発の深夜バスは無く、東京からとなります。実質2日間の登山に5日間をかけた(空路で帰った方は4日間)。十二湖ではホテル泊、白神岳では避難小屋泊との例会案内でしたが予約取れずバンガロー泊となってしまいましたがお飯を炊くことまでできましたし、白神岳では避難小屋代わりの休憩所も幸い快適な所で、宿泊に関しては幸運でした。秋の光景にはまだまだ早かったですが、天候にも恵まれたほうで遠方まで出かけた甲斐はありました。 記:板谷</p>								
連番	916	例会No.	一般611	内容	六甲・トエンティックロス～杣谷	実施年月日	2019/9/29	担当者	大石、翁長
参加者	大石隆生、翁長和幸、前田守、峯岡宣重、岩本和行				参加者数	5			
担当者コメント	<p>谷から登り、峠を越えて谷を下ってくるという水の流れに沿って歩く今回のコース、お彼岸を過ぎても暑さが残るこの時期に少しでも涼しいことを期待しました。都会の騒音から離れて水の流れる音を聞きながらの一日でした。新神戸駅から歩き始めるが、名残の日射病にならないようにゆっくりと歩く。布引貯水池を過ぎトエンティックロスに入ると流木に進路を塞がれる。右岸の堰堤の高巻き道があった辺りが崩壊しており、そこから流れ出したものか。滑りやすい足下に注意しながら崩壊地を横断していく。河童橋と名付けられた木橋を通り、飛び石で渡ってトエンティックロスを終え、黄蓮谷の出会いから徳川道の分岐を過ぎシェール道へ。木橋や飛び石で流れを渡るが、その回数は、トエンティックロスよりも多いのでは。穂高湖の巨大な堰堤を越え、シェール槍に寄道をしてから穂高湖の水際を回って杣谷峠へ。杣谷峠を下り、杣谷入口へ。予定ではここから長峰坂を経て阪急六甲駅まで歩く予定であったが、バス道に出てバス停の時刻表を見ているとバスがやってきた。「十分歩いたからバスに乗りたくないなあ」という希望があったので、考えることもなくバスに乗り、駅前下車した後、解散とした。 記:大石</p>								
連番	917	例会No.	OP293	内容	若狭・八ヶ峰と頭巾山	実施年月日	2019/10/5~6	担当者	板谷、村浪
参加者	板谷佳史、村浪義光、保木道代、安本嘉代、村木とも子、黒澤百合子、岩本和行、大石隆生				参加者数	8			
担当者コメント	<p>10月5日 JRが20分遅れとの情報でやきもきしたが、ほぼ予定通りの時間に八ヶ峰登山口を出発できた。旅行村はキャンプ客で盛況だが八ヶ峰登山者は皆無、終始我々だけだった。山頂からは日本海は見えないものの京都方面に連綿と続く山並みが見られた。終始紅葉前の緑が美しい中を歩くことができました。</p> <p>10月6日 夜中から雨になり、朝方まで残ったので出発を遅らせて朝はゆっくりしました。雨は止む気配なので7時旅行村を出発し、野鹿ノ滝へ移動しました。予報では午後からは晴れるとのことなので雨支度をして出発する。しばらく林道歩きで登山口に着く頃には雨はほとんど止んだ、いきなり渡渉があつて雨のため水量が多いようだ。急登で山頂稜線に出ると風が強くて少々寒いくらい、山頂直下は岩場となっておりロープが設置されている、イワカガミの群生する斜面が続く、花の時期には見ものだろう。やがて祠が現れて山頂に立つ、昔は避難小屋があったようだが、残骸だけが残っている。今日は雲に包まれて展望は得られず、風を避けて腹ごしらえの後、早々に下山に移りました。登山口に降り立つ頃には日差しが戻りました。小浜駅に帰って解散し、予定より早いバスに乗れました。 記:板谷</p>								
連番	918	例会No.	一般612	内容	(ベーシック登山No.53)比叡山(848.3m)「近畿の山リレー登山No.4」	実施年月日	2019/10/6	担当者	翁長、野原
参加者	翁長和幸、野原勇、西村晶、西村美幸、森本善博、安本昭久、片山純江、石上幸代、峯岡宣重、寺島直子、喜多田恵美子、大森朋江				参加者数	12			



# 2019年度('18/11~'19/10)EPEクラブ活動報告

2019/10/E現在 板谷

担当者コメント	EPEの活動をするまでは、比叡山といえば仏教の霊地というイメージがあった。そこに一等三角点がある事など、まったく知らなかった。従って、ハイキングの対象になる事なども到底思い付かなかったのである。比叡山といえば千日回峰の厳しい行が知られている。とりわけ無動寺明王堂での断食、断水、断眠、断臥の4無行が行われる「堂入り」という荒行が最も過酷とされている。今回はその明王堂にお参りをしたいという思いがあった。無動寺道から大比叡を登り、延暦寺中心部を経て本坂道を下った。本坂道は沢の源流のようにガレて荒れた所が多く、歩きづらい道になっている。延暦寺への登下降には無動寺道・本坂道の両道とも、あまり使われていないようだった。 記:翁長										
連番	919	例会No.	OP294	内容	劔岳・大猫山、中山	実施年月日	2019/10/12~14	担当者	西村(晶)、野原	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	920	例会No.	一般613	内容	台高・伯母ヶ峯(1266.7m)「近畿の山リレー登山No.5」	実施年月日	2019/10/14	担当者	杉本、前田	参加者数	
参加者	杉本康夫、前田守、北山かな、大森朋江、上野あさみ、安岡和子										
担当者コメント	天気予報では9時過ぎからは曇りとなっていたが、バスを降りても雨が降り続いていた。幸いにも本降りではなく小雨程度だったので傘を差しながらの山行となりました。残念ながら雨は上がりませんでした。バス停横の取り付きの木の階段は半分以上土に覆われていてあまり歩かれていないのがわかります。途中で2mmぐらいのヤマビルもいてまだヒルの出る季節だと実感しました。東屋まで登ると南側が開けていて晴れていれば和佐又山、日本岳や大普賢岳なども見える展望地なのですが今日は何も見えません。ここから七窪尾根に上るルートがないようなので適当なところから尾根に取り付く。木が少なく歩きやすい所を選んで登っていく。伯母ヶ峯までの稜線上は下草や灌木もなく歩きやすく気持ちが良い、またガスが出ていて幻想的な風景を醸しだしている。伯母ヶ峯の頂上は木の根がむき出しになって平坦ではないのでゆっくりと休憩ができない。三等三角点があるだけだ。おまけに樹林とガスで何も見えない。落ち着かないところなので早々に出発する。帰りは元来た道を伯母ヶ峯峠まで戻り、ここから手すりの付いた長い階段で林道に降りると5分ほどで伯母ヶ峯のバス停に着きました。このコースは標識やテープが少なく道も踏み跡程度であったが、歩きやすくわかりやすい道でありました。 記:杉本										
連番	921	例会No.	OP295	内容	鉄山～八経ヶ岳～行者還岳	実施年月日	2019/10/19~20	担当者	小椋(勝)、山倉	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	922	例会No.	一般614	内容	梶谷から和泉葛城山	実施年月日	2019/10/27	担当者	紀伊壱本(節)、西村(晶)	参加者数	
参加者	紀伊壱本節雄、西村晶、片山純江、喜多田恵美子、馬場美穂子、安本昭久、村木正人、脇本勇二、前田守、翁長和幸、安岡和子、村木とも子、飯尾廣子、大森朋江、西村美幸、和田良次、和田敬子、西向美保子、寺島直子、保木道代、安本嘉代、上原進一										
担当者コメント	2018年4月から2度、この例会は雨天中止となっている。今回は3度目の正直で、まあまあのお天に恵まれたのは良かった。その間に私は3度下見を訪れている。しかしこの辺りへの興味はいっこうに尽きない。一つは私の単なる錯覚だが、大阪府下から南に向かって登る山があったかなと首を振る。子供の頃から東に金剛、北に六甲、西と南は海という概念が私の頭から消え去らない。その錯覚に合わせて、この辺りの地形は単純にして複雑、地図を逆さまに持ち替えても方向を間違えることが度々、ひょとして方向感覚が老化したのかなと苦笑する。さらにまわりの低山には、室町から戦国期にかけての群雄割拠の夢の跡が点在する。まさに道草の天国である。したがって下見の効率は甚だ悪かったと云うことです。ところで、この度の例会ではそんな気配は胡散のごとく消えている。ルートは単純明快、ただ歩け歩けで終わってしまった。やっぱりあれは私の錯覚だったのか、それとも尽きない興味を果たさずに見た夢か。参加者の皆さん、今一度一緒に楽しいルートを探し尋ねてみたいと思います。ご期待ください。 記:紀伊壱本(節)										
一般例会(新年会含む) : 44回 / 488名    オプション例会 : 28回 / 189名    例会合計 : 72回    参加者総数 : 677名											